教育プログラム・コースの概要

大学名等	国際医療福祉大学大学院医学研究科、薬学・薬科学研究科、医療福祉学研究科
教育プログラム・コース名	がん医療の現場で顕在化している課題に多職種連携で挑む人材育成コース（正規課程：薬科学研究科、医療福祉学研究科修士課程）
対象職種・分野	医師、看護師、保健師、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、遺伝カウンセラー、診療情報管理士、理学・作業・言語聴覚療法士、生殖補助医療胚培養師、社会福祉士、介護福祉士、公認心理師（臨床心理士）など
修業年限（期間）	２年
養成すべき人材像	多職種連携チームを形成し、がん医療現場で顕在化している課題ー痛みの治療やケア、がん関連学際領域への対応、遠隔病理診断や地域での放射線治療などに関しての対応など、広範囲に対応できる医療専門職人材を養成する。
修了要件・履修方法	必修科目６単位以上を含む１０単位以上を履修し、試験に合格すること。
履修科目等	＜必修科目＞ がん治療の先端知識の基礎（２単位）、医療プロフェッショナリズム・医療安全（1単位）、がんのカウンセリング概論（２単位）、がん多職種協働アクティブラーニング実習（１単位） ＜選択科目＞ 緩和医療一般（２単位）、がん疼痛へのアプローチ（２単位）、腫瘍循環器学際領域（２単位）、老年腫瘍学際領域（２単位）、腫瘍腎臓病学際領域（２単位）がんサバイバーケア（２単位）（以上連携校共通インテンシブプログラム）、がん治療薬学（２単位）、臨床腫瘍学各論（１単位）、臨床疫学概論（２単位）、診療情報管理学（２単位）、がん診療の基礎知識（２単位）、がん看護学（２単位）、がん治療放射線医科学（２単位）、臨床心理学概論（２単位）、がん臨床検査学（１単位）など
がんに関する専門資格との連携	腫瘍内科専門医（日本臨床腫瘍学会）、がん専門看護師（日本看護協会）、認定遺伝カウンセラー（日本遺伝カウンセリング学会）、臨床心理士（日本臨床心理士資格認定協会）、緩和ケア専門医（日本緩和医療学会）など
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	従来の専門性に基づいた縦割り教育を廃し、大学院に学ぶ異なる専門領域の学生がクロスオーバーし、さらに連携校の学生と積極的に協働し、がん医療の現場で顕在化している課題に多職種で挑み、患者支援に関わる専門医療職の養成を目指す点に特色を持つ。特に痛みのケア・治療に関しては医師の他に臨床心理士が参加することで、精神的な支援に関して多様なアプローチを実施できる。
指導体制	本コースを受講する各院生の出身母体の分野専攻の責任者および指導教員が責任を持って指導を行う。加えて、共通項目の学修に関しては、本がんプロを運営する推進委員会委員が連携校の委員と共にWGを編成して対応する。
修了者の進路・キャリアパス	医師のみならず看護師、薬剤師、PT・OT・ST、診療放射線技師、臨床検査技師、遺伝カウンセラー、ケアマネージャーや介護福祉士、公認心理師など多様な職種の医療スタッフがそれぞれの立場からがん患者に最善の支援を提供できる専門家となり、がん診療病院で指導的役割を担うことを期待され、がん患者、支援者のみならず社会や地域に大きな利益をもたらす。
受入開始時期	令和６年４月

受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	7	7	7	7	7	35

受入目標人数設定の考え方・根拠	過去の大学院のがんプロ志願者数及び大学院医学研究科公衆衛生学専攻及び医療福祉学研究科の入学者実績から、受け入れ目標人数を７人と設定した。

履修者数 ※当該年度に「新たに」入学した人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	16					16